震災の街に　災救隊、駆け付ける

…有事即応の体制に、道庁から出動要請…

9月11日　むかわ町にて被災者へ物資支給

9月13日　厚真町にて住宅内片付け

北海道教区報

第552号
発行所
天理教北海道教務支庁
札幌市中央区南８条西11丁目
電　話011（561）－1148
ＦＡＸ011（561）－1190
E-mail:kyouku-h@vega.ocn.ne.jp
印　刷
三浦印刷株式会社

胆振東部地震に際し被害に遭われた皆様に対し
心からお見舞を申し上げます
一日も早い復旧、復興をお祈り致します

９月６日未明の大地震により、道内各地に甚大な被害が出ました事は、誠に悼ましい限りであります。家屋倒壊、山崩れ、道路の陥没に加え、停電をはじめとする様々なライフラインが機能しない状態になり、各地に大きな影響が出て、今尚避難生活を余儀なくされている方々が大勢おられます。

地震発生直後より災害対策委員会にて情報収集に努め、被害の大きい地域には災救隊本部長、教区隊長が現地に赴き、行政との折衝を経て、11日から16日まで厚真地区、むかわ地区等に災害救援ひのきしん隊を派遣。被災された方々に寄り添う活動を展開いたしました。

６日、７日に予定されておりました主事会、各部会会議、支部長会議、教区慰霊祭、記念祭、天理時報推進大会は中止とし、７日に第98回記念祭祭文奏上の上、この度の「北海道胆振東部地震」の一日も早い復旧を願い、お願いづとめをさせて頂きました。

ここ数年、地震、台風、雨、風による自然災害が全国各地で起きています。又、私達は身上、事情によるお知らせを頂いております。私達は、親神様の思召しである、陽気ぐらし世界実現を目標とし、ようぼくとしての役割を頂いておりますが、一人ひとりが、ぢば一条の心を胸とし、今こそひのきしん精神を発揮して、勇んでお道の御用につとめさせて頂きたいと思います。

９月７日
教区長　西垣定洋

「超大型台風に続いての大地震」

９月６日未明、胆振地方を震源とする大地震が発生した。震災の街に北海道教区災救隊は、道庁からの要請を受けて、被災地で一般ボランティアの受け入れ準備や被災住宅の片付けなどを行い、ひのきしんの心で被災者に小さくとも確かな明かりを灯した。

道内では４日から５日にかけ、台風21号がかなりのスピードで通過。道央を中心に屋根をめくり、ビニールハウスを破って、大木を倒すといった爪痕を残し去り、呆然としていた所に、大きな揺れが襲った。

厚真町で北海道で初めての最大震度７、近隣のむかわ、安平町から、遠くの札幌でも震度６で揺れた。家屋の倒壊や土砂崩れなどで被害が出た。また、全道がブラックアウトと言われる国内初の大停電となって被害を広げ、信号や水道が止まり、ガソリンが給油できなくなり、スーパー、コンビニと物流がストップ。道民の生活全体が、もろくも大きく崩れた。

「記念祭は縮小 時報普及推進大会は中止に」

一方教務支庁ではこうした状態を鑑み、６日は教区慰霊祭、功労者の合祀祭、支部長会議を準備していたが、やむなく中止。翌７日の教区記念祭は、祭文を

北海道教区のホームページ〈http://tenrikyohk.wixsite.com/tenrikyo-hk〉教区報がご覧頂けます。

過日、作家で元文化庁長官の三浦朱門氏が九十一歳で亡くなられた。奥さんは同じ作家の曽野綾子さんである。

その彼が生前に提言された書物を持っているが、その中に「宗教として一番大切なことは、現世の掟を超える原理を示してくれることだと思います。現世を超えて、永遠に生きる道と心構えを教えてくれるのが宗教の一番すばらしい面だと思います」とある。そして私達天理教の人々に対して「宗教が伸びるときというのは、順境でなく逆境にあるときだと思います。天理教の歴史でもそうでしょう。弾圧され逆境にあるときに、本当の意味で信仰の核心があきらかになり、そして本当に良い信者が集ってきています。順境のときは、数字の上での繁栄はあるかも知れないけれど、質の上での繁栄というのはどうでしょう。」と申されている。そしてさらに「いわゆる現世的な平安とか、見かけの豊かさがあるときこそ必ず不満は出てくるものです。これを解消するのは宗教以外にないわけです。だから一層本当の信仰心を奮い起こして頂きたいのです。」と続く。

私は亡くなられた機に三浦氏の提言を再度読みながら、ある先人のことを思い浮かべた。

私の知人の父親は若い頃に肺結核を病んだ。当時は医学も及ばず「死に至る病」であった。父親は天理教に入信され、この世の筋道、人の生命の根源を理解し、神からの「かりもの」の身体を自覚して心の大切さを悟られ、心の修養に励まれた。その信仰の努力の結果見事に病を克服したのであった。父親は感動の中、以後御礼の「ために神に喜ばれる道を選んだ。それは人だすけに一生を捧げる心定めである。

早速、会長の許しを得て教会へ住込み布教を始めた。その新しい教会生活の出発の時に「私はいんねんも悪く徳のない者です。私は人並みの生活を望みません。生涯低い心で通らせて頂く事を目指します」と申されて、以後教会ではよる寝るときは土間にむしろを敷いて寝る心定めをされた。これは自分の将来のために自ら逆境に身を置いたのだ。この心が困難に出会っても心変わりせず、たすけ一条を貫く元ともなったのである。

人は意義ある大きな目標のために身を律することがあっても不足心は湧かないものだ。この父親は「こんな私でも、ありがたい」と申されて生涯感謝の念で喜び勇んだ人生であったという。そして後にたくさんの人をたすけられて盛大な教会を設立された。現在、知人は二代会長として素晴しい講師となり活躍されている。

随想二十五

身を律する

木岡　昭

新会長さん紹介

（平成30年８月26日お運び）

室蘭支部
蘭西分教会（幅下）
奉告祭　９月30日

佐伯泰彦氏
（46歳）

南空知支部
道仙分教会（仙臺）
奉告祭　11月15日

藤本　光氏
（42歳）

けいじばん

◎法律に関わる諸問題でご相談の方は弁護士を紹介致します。教務支庁内の書記（渡部）までご連絡下さい。

◎手話・点字講習会
毎月１日、教務支庁にて午後６時から８時まで行います。
※雅楽練習会も併行して開催しています。（三布連）

◎毎月26日に本部月次祭遥拝式
をおこなっております。
是非御参拝下さい。

訃報

・高野真理子様　８月29日出直（66歳）
樽澤分教会長夫人　（小樽支部）

・上西　元子　様　９月１日出直（91歳）
西當麻分教会長前夫人　（上川支部）

北海道教務支庁日誌抄

（８月20日～９月19日）

８月
22日　図書修理会
24日　婦人会掃除ひのきしん
26日　月次祭遥拝式
27日　教区長会議
31日　婦人会委員部長講習会
婦人会長様お入込み

９月
６日　教区慰霊祭
７日　教区記念祭
胆振東部地震の為、在庁者のみでおつとめ
災害対策委員会招集
９日　任命願書発送
10日　事情願書発送
11～16日　胆振東部地震
災救隊ボランティア支援活動
於：厚真町・むかわ町
16日　しらゆき会
こかん様につづく会
17日　学生会　ひのきしんＤＡＹ
19日　教区報編集会議

編集後記

今号は大きな出来事をまとめるので編集はスムーズだとタカをくくっていた。ところが、頼みとする者は皆おぢば、最後の砦の書記さんも教会長任命のお運びという。そこで作業自体もおぢばで成し、校正をした。ああ、ありがたい。おぢばである。

9月12日　出動隊６支部37名

奏上し、主だった者で座りづとめをつとめ、胆振東部地震の一日も早い復旧をも願いつとめられた。また、時報普及推進大会も記念祭に合わせ予定されていたが、新千歳空港が閉鎖のため講師も来道できず、参拝者も集合が困難ということで中止となった。

「田中災救隊本部長視察」

そうした中を災救隊田中勇文本部長は、青森空港へ降り立ち空港からレンタカーを借りフェリーで本道に入り、道路状況の悪い中をも省みず、７日８日と管内の被害状況を確認された。余震も頻繁に起こり、停電と断水が続くため、被災地で宿営しての救援活動が困難であることと、行政や社協も情報収集中で混乱していたため、災救隊は待機状態となった。被害は、南空知支部の教会で神殿が基礎からずれ、傾いた事で、親神様をご遷座した教会があったり（早速近隣の教友が駆けつけて手伝った）、主だった報告を受けたが全道の建物の損壊は数知れず、道路の陥没のあった札幌東支部管内にも広がっていた。危ういながら、人的被害は免れた。（教務支庁で全教会の状態を調査中）。

「北海道庁から要請受け出動」

そうした中、10日に北海道庁からむかわ、厚真の両町での、災害ボランティアセンター（以下VC）立ち上げの協力要請が来た。隊長始めスタッフ、支部隊長が、昨年10月からの自治体や社協、関係機関との連携会議に出席してきた事が早速機能し、協力体制を迅速化させた。早速、教区災害対策委員会が開かれて深夜近くなって活動の要諦が決まり、11日からボランティア団体として日帰りでの出動が決定した。出動に際しては災救隊の道内６ブロックを６日間に割り当て、教区集合解散の形で行い、災救隊スタッフでは補えない所を、多くの教務支庁スタッフが一丸となって、連日、早朝から深夜まで休むことなく救援活動のサポートに当たった。

11日６時、道央ブロックの支部隊から１日目の活動が始まり、揃いの災救隊Tシャツを着た隊員が被災地へ。ケータイもつながりにくい、道路状況も急な通行止めなどある中、教務支庁から車で約２時間。むかわ、厚真両町へ分かれて出動した。現地では早速、VC立ち上げと運営のお手伝いをした。その姿はすぐさまNHKの正午のニュースなどで取り上げられ、災救隊のTシャツ、青いヘルメットが目に留まった。

土嚢運搬

ボランティアセンター受付、誘導

「災救隊、被災者の力に」

12日、道中ブロックの各隊から34名が出動し両町に分かれ、VC立ち上げのサポートとなどを行った。むかわ町では前日、VC用のテント設営などを行ったが、一般ボランティアでは難しい・目の不自由な女性宅の片付けに天理教独自で入った。前日までにいくらか片付けたとはいえ、室内にはガラスが散乱し、冷蔵庫も手付かず。立っている物はすべて倒れ、引き出しの物がすべて飛び出て足の踏み場もない状態を、てきぱきと整理し災害ゴミを搬出した。これが、むかわ２グループ18人の一日の活動となった。空いた時間には避難所付近のゴミ拾いをしたが、倒壊した家屋を間近に見るなど、たすけの心を大きくすることとなった。

また、厚真町でも民家のゴミ出しや倒壊した薪棚の補修や整理がおこなわれたが、全期間出動した、布教の家北海道寮OBの岸本さん「厚真では断水が続き、生活用の水運びも手伝いました。ご老人には大変ですから、とても喜んで下さいました」と活動の感想を伝えてくれた。

「意識の高い隊員の活躍」

ボランティア活動が本格的になる前の11日から16日までの６日間、のべ217名（女子38名を含む）が全支部から漏れなく駆けつけ、日帰りの救援作業ではあったが、北海道教区隊はそれぞれの社協の窓口と連携して復旧活動に尽力することが出来た。奥村尚人隊長は、「毎日、むかわ、厚真町に10名ずつの出動予定が、各支部の熱い思いで、予想を大きく超えるひのきしんの方が参加くださり、大変ありがたく思いました。被災された方々が、涙ながらに何度も感謝の言葉をいただき、疲れも飛びます。」と言い、顔には少しの疲れと、やり遂げた喜びがにじんでいた。被災地では未だに避難生活が続き、災救隊としても一区切りはつけたが、グループや個人参加を呼び掛け、支援を続けている。何よりも、災害の起きないようご守護を願い、地域ひのきしん活動の実行と推進を今後も教区挙げて取り組みたいものである。

婦人会長様お入り込み 委員部長講習会ミニアルバム

天理教基礎講座北海道会場 網走会場　開催報告

9月16日、網走支部（倉内章次支部長）として２年ぶりの基礎講座が、女満別研修会館を会場として開催され、27名の方が受講された。十日前に発生した胆振東部地震とその後の全道を襲った大規模停電のため講座の開催自体が危ぶまれたが、支部長先生始め、担当者の皆様の熱意により実現した。その思いが通じたのか、当日は汗ばむほどのお天気に恵まれた。

講師の内田誠司先生は前日被災地の厚真町での災害救援ひのきしんの現場から会場入りし、講座後は女満別空港から新千歳空港経由で函館に戻る強行軍をものともせず、力強く楽しいお話で受講者を魅了。ご自分の身内の身上を通しての気づきや、そこからの悟りなど分りやすい事例を掲げて親神様・教祖の教えの素晴らしさを語った。「有難い」の反対は「当たり前」。感謝と慎みを持ち、たすけ合って陽気ぐらしの歩みを進めましょうと結んだ。（大竹直也）

次回は10月7日 深川市（天理教雨龍大教会）で開催します。

女子青年 こかん様に続く会

9月16日、教務支庁を会場に、女子青年の「こかん様に続く会」が催され、参加者7名、担当1名がこかん様について学び、自分の歩みを考えました。

まず、こかん様について学んでから、大通りに向けて神名流しが出来たので、一層気持ちが高まって良かった。その後、皆で昼食を作ったり、UVレジン雑貨づくりを楽しみました。次回もたくさん集まって楽しくためになる、ひと時を持ちたいと思います。（委員長・堺）

北見支部総会

晴天の9月9日、地震や停電の影響の少ない仁頃分教会で、おつとめ総会をつとめ、支部管内の教会長はじめ、よふぼく、信者の親睦もかねて、賑やかにつとめました。

9時半より献饌が始まり、祭儀式、おつとめは3交替で少年会員も含めて陽気につとめて、支部長の挨拶、教区長のメッセージを拝読。上猿間前会長の吉田先生が体験談を講演し、直会では焼き鳥とビンゴゲームをして楽しんだ。

参加者60名、子供8名。